

六四 於町中下々申事之儀御定

當地町中にて下々申事仕出に付ては、其町人として相改、双方落付所見届、年寄共方迄案内可申旨可被申付候。從此已前右之通に相聞候條、向後之儀尙以堅可被申付事肝要に候。從高岡も内々右之分被仰越候條、其心得尤に候。謹言。
(慶長十六カ)
八月十七日

御 判

篠原出羽守殿

六五 諸式法度可相守儀御觸

家中諸式申出候法度之儀、相背輩於有之者、直參之儀は不及申、又若黨・下々に至迄、聞届次第可申上候。若向後猥之儀在之者、兩三人可爲越度候條、可成其意者也。
(慶長十六カ)
八月十八日

御 判

淺野 將 監殿
西野右馬助殿
河原 兵庫殿

爲御意申入候。

一、御家中諸事御法度被仰出候處、下々自然猥之儀就有之は、淺野將監・河原兵庫・西野右馬助、爲兩三人相改可致言上旨被仰出候事。

一、又若黨・小者等に至迄、かぶきもの於被相抱は、其主人可爲越度旨、從御父子様堅被仰出候事。

一、たばこ之儀、最前如被仰出候、堅可被申付候。若致取扱もの有之は、見逢次第に搦捕可指上旨被仰出候事。

右之趣、何も御法度無相違様に可被申付旨被仰出候條、可被得其意者也。

八月十八日

横山山城守
奥村河内守
篠原出羽守

人持衆に 一通
御馬廻組頭鐵炮頭衆に 一通
御小姓番頭衆に 一通

六六 侍屋敷歩圖之儀御定

金澤侍屋敷之覺

一、一 萬 石 四拾間四方

一、九 千 石 同

一、八 千 石 三拾五間四拾間

一、七 千 石 同

一、六 千 石 三拾間四拾間

一、五 千 石 同

一、四 千 石 三拾間四方

一、三 千 石 同

一、二 千 五百 石 二拾五間三拾間

一、二 千 石 同

一、千 九 百 石 二拾間三拾間

一、千 石 二拾間二拾五間

一、七 百 石 二拾間四方

一、四 百 石 拾五間二拾間

一、二 百 石 拾 間二拾間

右屋敷之事、間敷を以令算用、歩圖りに可相渡候。何も屋敷並可然様見計可申候。父子有之者は一所に可遺者也。

(慶長十六カ)
亥九月三日

御 判

淺野 將 監

野村五郎兵衛

河原 兵庫

石川 茂 平

西村右馬助

六七 屋敷奉行申渡

金澤屋敷奉行

西村右馬助

淺野 將 監

河原 兵庫

石川 茂 平

野村五郎兵衛

右當地物屋敷奉行申付候。何も見計可然様に可相渡候。若脇々より申分雖有之、奉行共に相尋、以其上可相定者也。仍如件。

慶長十六年八月廿七日

利 光